包括的な学校改善の視点：学校マネジメント

組織的かつ戦略的な学校改善を推進する学校モデル

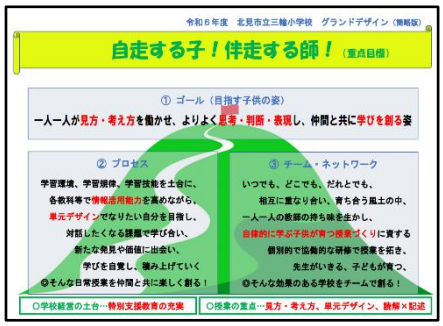
中核校	北見市立三輪小学校	指定校	北見市立西小学校、北見市立光西中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　戦略的なグランドデザインによる学校経営方針の浸透

・網羅的な従来のグランドデザインのほか、焦点化した「簡略版グランドデザイン」の提示により、学校経営方針とその具現化に向けた道筋について、全教職員の共通理解を図る。

・校内のあらゆる教育活動の様子について「観察→状況判断→意思決定→実行」の OODA ループによる即時的な改善を行う。

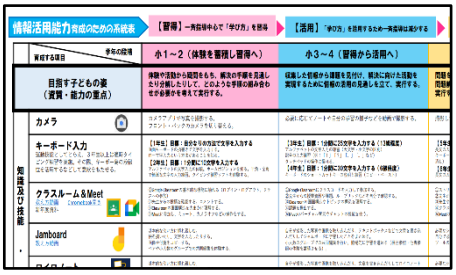


【簡略版グランドデザイン】

○　情報活用能力の育成を重点とした教育課程の実施

・中学校区３校が連携して「情報活用能力の育成のための系統表」を作成し、教科等横断的な視点で授業改善を進めるとともに年４回実施する授業交流や事後の協議を通して、育成を目指す資質・能力の検証と指導計画の更新を随時行う。

・児童生徒が自ら学びを進めていくための基盤となる「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現」等の技能を９年間を見通して指導し、授業の中で活用させながら、定着に向けた支援を行う。



【情報活用能力の育成のための系統表の一部】

○　組織力を高める校内研修のデザインと実践

・教務主任と研修部長が連携し、教員が空き時間等を利用して授業を互いに見合うことができるよう工夫し、チャット機能やクラウドを活用して各教員の好事例を即時的に共有することで、指導のポイントを全教員が理解し、自らの授業実践に取り入れることができるようにする。

・校内研修や学年委員会では、意図的に経験年数や得意分野が異なるグループ編成となるよう工夫し、ビジョンの達成に向けた具体的な対話や議論を通して、組織力の向上及び人材育成を図ることができるようにする。

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・グランドデザインの作成に当たっては、教頭、主幹教諭、教務主任、研修部長、専科加配教員、事務職員から、よりよい内容や学校全体で共有を図るためのレイアウト等に係る意見を聞くことにより、学校の核となる教職員がグランドデザインの当事者であることを自覚できるようにした。

・授業や教育活動のよさを見取り、全教職員に周知する際には、他の教職員への波及効果や学校全体のモチベーションの向上につながるよう、校内の様々な取組のうち、「誰の」「どのような取組」を「いつ」取り上げるか、意図的・計画的に行った。

〔主幹教諭の取組〕

・中学校区３校の主幹教諭が連携して教育課程実施上の課題や今後の改善策を整理・分析し、結果を各校の校内研修や打合せ等の日常的な議論の中で提示することにより、各教員が日常の授業改善に活用できるようにした。

・重点化した取組（読解力・記述力の向上）について、好事例をスライドで共有し、各校の取組を促進した。

【主幹教諭が作成した好事例のスライド】

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・地域協議会、公開研究会、市内の指導力向上研修会において、管理職、主幹教諭、教務主任、研修部長、事務職員等の各担当が役割を分担し、構築した学校モデルについて参加者に説明した。

・中核校の実践が「学校情報化優良校（日本教育工学協会）」として認定され、広く発信された。